

日本景気拡大の歴史

2017年10月7日
朝日新聞 他

2012年12月に始まった現在の景気拡大は期間では4年9か月の「いざなぎ景気」に並んだとはいえ人々に好況の実感はない。

急速な高齢化が進み生産年齢人口の変化(いざなぎ景気の頃は500万人弱増える。片や、今回は400万人ほど減る見通し)で個人消費に勢いが無い。更に今回は賃金の伸びが鈍い。

生産年齢人口の減少は高齢者の増大を生む。高齢者は自分の食べ物以外に多くの消費をせず、個人消費は停滞する。

企業は国内市場の縮小を見込み、設備投資に慎重。成長の見込める海外企業を将来、買収するための資金の確保を考え簡単に賃金を上げない。

企業利益が内部留保や配当金、役員賞与にまわり、従業員に届かぬ時代になってきた。

従業員の昇給が鈍いため、個人消費が上がらず、国民は好況感を感じていない。

